

臨床福祉専門学校

理学療法学科（昼間部）平成26年度 第一回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成26年9月30日（火） 19:00～19:30

場所：臨床福祉専門学校 3F会議室

出席委員及び所属

下河辺 雅也（山田記念病院 技師長）

石垣 栄司（臨床福祉専門学校 理学療法学科学科長）

神田 太郎（臨床福祉専門学校 理学療法学科副学科長）

萬崎 保志（臨床福祉専門学校 事務次長）

1 学習意欲を喚起・確立するための「現場体験」、もしくは「患者様など、対象者とのふれあい体験」の実施について、学科サイドで立案した大まかなラフプランを石垣学科長より説明。

①現在は8月に見学実習を実施しているが、これを挟む形で2種の取り組みを新たに設ける。

②学生のモチベーションが下がり始める5月の連休明け前後、入学早期に規模の大きい医療施設への「現場見学」を行う（取り組みA）。ここで、理学療法士のみならずリハの流れ全体を見せていただくことで、他職種との連携も把握できると良い。

③見学実習後に、PTなど現場の医療スタッフや患者さんに来校頂き、話を聞く機会を設ける（取り組みB）。見学実習は見ているだけで現場のPTと話す機会がほとんどないので、見学実習を経たからこそその疑問を学生がフランクな雰囲気の中で率直に聞ける場を設けることが趣旨。

④取り組みBは、一人の講師を招いての「講義方式」でなく、10名にひとり程度の小グループで行ってこそ効果がある。

⑤これら2つの取り組みは、特別講義という位置づけだと学生の出席率が落ちるので、授業コマの一環として位置付ける。

2 意見交換

・ 以前本学科では、今回の取り組みのような施設見学や患者さんを囲んでの合宿等を、1学年の後期に実施していた。これが「ふれあい体験」の原型。（学科）

・ 以前やっていた折は、何かを目的とした取り組みというよりは、授業の一環としての意味合いが強かった。昼間部の場合、「リハビリテーション概論」の中で、ディスカッションや発表まですべて含めて単位化。ただ、教職員と学生、患者と学生というように親睦の意味もあったように思う。（学科）

- 取り組みA及びBはともに現在の科目の一部を割り当てることを想定するが、現科目担当の講師からその承諾を得る必要がある。具体的な科目はすでいくつか考えられるが、いずれにしても担当講師には理解を得られるだろうとの見込み（学科）。
- これらふたつの取り組みを充てる科目としては、「リハビリテーション概論」「基礎理学療法学」「生理学」「見学実習」などが考えられる。具体的な科目とボリュームについては今後検討していく。その際、昼間部と夜間部の違いも注意が必要である。（学科）
- 規模が大きく受け入れ環境の整っているところに一斉に見学に行くという学科のプランは現実的である。通常の病院ではせいぜい10人程度とか制限がある中でしか受け入れられない。（委員）
- 本日の学科会議で科内にはプランのあらましを周知した。今後、具体化へ向けて動き始める。（学科）

3 次回開催

- 事務局で日程調整の上、委員にご連絡。